

1. 企画情報部

1 機関評価委員会及び調査研究企画・評価委員会の開催

令和4年7月、第3期中期運営計画（R3～R7、五カ年計画）及び年度実施計画の取組状況や目標の達成度についての評価を受けるため機関評価委員会を、また当研究所が行う調査研究事業についての評価を受けるため調査研究企画・評価委員会を開催とした。

機関評価委員会は、保健政策課と衛生研究所が推薦する専門委員7名（地域保健・公衆衛生分野の専門家・有識者5名及び内部委員2名）により構成される。調査研究企画・評価委員会は、機関評価委員と同じ7名により構成される。

(1) 機関評価委員会

ア 評価項目

i) 県民に対して提供する業務

調査研究、試験検査、研修指導、公衆衛生情報等の収集・解析・提供

ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

全体マネジメント、他機関との連携、内部人材育成

イ 評価基準

項目別評価については、達成度と難易度を考慮して判断を行う。難易度はH（高）・M（中）・L（低）の3段階、達成度は4段階（AA・A・B・C）の基準を用い、これらを勘案した上で、下表を参考に判断する。

難易度	達成度			
	AA	A	B	C
H	AA	AA	A	C
M	AA	A	B	C
L	A	B	C	C

総合評価については、項目別評価の評点を数値化（AA：4点、A：3点、B：2点、C：1点）し、集計した結果の平均を4段階（AA：3.5点以上、A：2.5点以上3.5点未満、B：1.5点以上2.5点未満、C：1.5点未満）で示すことより、判定される。

ウ 令和3年度評価結果

総合評価：A（3.3） 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取り組みを実施していると評価された。

(2) 調査研究企画・評価委員会

ア 評価対象研究課題

中間評価

令和1年度から開始した研究課題2題及び令和3年度から開始した研究課題1題

イ 評価項目

①必要性 ②進捗状況 ③計画の妥当性 ④目標の達成及び活用の可能性 ⑤総合評価 ⑥継続実施の適否

ウ 評価基準

上記①～⑤の評価項目については5段階評価、⑥については3段階評価

エ 研究課題及び評価結果

中間評価

- ・茨城県における薬剤耐性菌の分子疫学解析に関する研究

総合評価：4.6

- ・感染症発生動向調査事業に係る次世代シーケンサーを用いた病原体の網羅的解析および疾患等への関与に関する試験研究

総合評価：4.6

- ・凍結粉碎法を用いた食品中の残留農薬分析における前処理法の検討

総合評価：4.6

2 感染症情報センター

県内の感染症発生状況について、感染症発生動向調査における週報・月報等の情報還元をはじめ、流行が懸念され注意が必要と考えられる感染症についての注意喚起等を衛生研究所ホームページ等で行っている。

県内の医療機関等から報告された二類～五類感染症（全数把握疾患・定点把握疾患）及び指定感染症の報告数については表1及び表2のとおりである。

また、「茨城県感染症対策委員会」において、県内の感染症発生状況のまとめを報告し情報提供を行った。

表1 令和4年次全数把握疾患

分類	疾病名	患者報告数
二類	結核	363
三類	細菌性赤痢	1
	腸管出血性大腸菌感染症	89
四類	E型肝炎	13
	A型肝炎	8
	つつが虫病	14
	日本紅斑熱	1
	レジオネラ症	93
五類	アメーバ赤痢	6
	ウイルス性肝炎（E型及びA型を除く）	1
	急性脳炎	28
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9
	後天性免疫不全症候群	16
	梅毒	240
	破傷風	7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4

	侵襲性肺炎球菌感染症	30
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	57
	水痘（入院例）	2
	播種性クリプトコックス症	2
	百日咳	3
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（全数報告*）	298,390**
	新型コロナウイルス感染症（限定化報告*）	41,367***

*公表資料の情報をもとに集計

**発生届の限定化措置（令和4年9月2日～）に基づく報告数

表2 令和4年次定点把握疾患

	定点分類	疾病名	患者報告数	（定点当たり患者報告数）
週報	インフルエンザ	インフルエンザ	310	(2.61)
	小児科	RSウイルス感染症	1827	(24.36)
		咽頭結膜熱	440	(5.87)
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1207	(16.09)
		感染性胃腸炎	11725	(156.33)
		水痘	227	(3.03)
		手足口病	2765	(36.87)
		伝染性紅斑	36	(0.48)
		突発性発しん	642	(8.56)
		ヘルパンギーナ	940	(12.53)
		流行性耳下腺炎	88	(1.17)
	眼科	急性出血性結膜炎	7	(0.41)
		流行性角結膜炎	382	(22.47)
	基幹	細菌性髄膜炎	1	(0.09)
		無菌性髄膜炎	5	(0.45)
		マイコプラズマ肺炎	48	(4.36)
		クラミジア肺炎	0	(-)
		感染性胃腸炎	0	(-)
		(病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
月報	基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	287	(23.92)
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	(-)
		薬剤耐性緑膿菌感染症	15	(1.25)
	性感染症	性器クラミジア感染症	974	(44.27)
		性器ヘルペスウイルス感染症	308	(14.00)
		尖圭コンジローマ	91	(41.14)
		淋菌感染症	219	(9.95)

3 ホームページの運営

研究所全体の概要や各部の業務、試験検査・調査研究の紹介及び最新情報を提供するためホームページを開設し平成15年2月から運営している。なお、平成27年3月に茨城県ホームページシステム変更に伴いリニューアルした。

<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index.html>

ホームページ管理運営委員会を3ヶ月に1回開催し、感染症、食品及び医薬品等に関する公衆衛生情報を106件（表3）掲載した。

また、健康プラザの展示スペースでパネルを掲示した（表4）。

表3 令和4年度ホームページ掲載公衆衛生情報

掲載月	タイトル
4月	・マダニに注意しましょう
8月	・梅毒が増加しています！
8月	・レジオネラ症について
10月	・秋はマダニに注意しましょう
10月	・アニサキスによる食中毒に注意しましょう
11月	・11月は薬剤耐性対策推進月間
11月	・家庭用品試験検査について
1月	・茨城県衛生研究所における医薬品試験検査状況について
1月	・茨城県内に生息するマダニとリケッチア
2月	・日本脳炎に注意しましょう

そのほか、年間を通して、感染症流行情報の「週報」「月報」「病原体検出情報」について76回、「新型コロナウイルス感染症に係る検査状況」について20回更新。

表4 令和4年度パネル掲示公衆衛生情報

掲示月	タイトル	掲示場所
8月	・梅毒が増加しています！	健康プラザ
8月	・レジオネラ症について	
10月	・もしもマダニに刺されてたら	
10月	・アニサキスによる食中毒に注意しましょう	
11月	・11月は薬剤耐性対策推進月間	
11月	・繊維製品に含まれるホルムアルデヒドの試験検査	
1月	・後発医薬品（ジェネリック医薬品）の試験検査	

4 薬剤耐性対策に関する普及啓発

茨城県における薬剤耐性（Antimicrobial Resistance : AMR）への対策を講じるため、令和元年度から事業を開始し、県民等への普及啓発を行っている。

(1) 茨城県薬剤耐性対策推進会議

薬剤耐性に対する取り組み（普及啓発、調査研究等）を具体的かつ効果的に推進するため、令和元年11月に設置した。この会議は、県内医療機関に勤務し、感染対策に関する専門的な知識を有する医師、看護師など、7名の委員により構成される。

会議は令和4年6月29日（金）及び令和5年2月27日（月）に茨城県衛生研究所にて、事務局から薬剤耐性対策に係る令和4年度の取り組みを報告するとともに、今後の取り組み（特に普及啓発事業）について議論した。

(2) 普及啓発事業

令和4年度は次の事業を行ったほか、県政出前講座等における講演などを7回行った。

- ・ホームページの更新、薬剤耐性菌による感染症に係る情報発信（随時更新）
- ・県民向け AMR 啓発動画「薬剤耐性菌っ知っていますか」の作成（9月～）
- ・筑波大学芸術専門群の学生と協同で啓発動画の作成（10月～）
- ・茨城放送のラジオ番組「知っていますか？クスリのお話」での広報（10月、11月、1月）
- ・県公式 Twitter での広報（11月）
- ・NHK データ放送での広報（11月）
- ・県報ひばりでの広報（11月）

5 地方衛生研究所全国協議会の連絡調整

協議会の会員機関として、6件の調査等（表5）に協力するとともに、会員機関同士の情報交換を行った。

表5 令和4年度地方衛生研究所全国協議会の調査等一覧

調査名	実施機関等
・健康被害危機管理事例（概要情報）の調査について	地方衛生研究所全国協議会学術委員会
・地方衛生研究所の現状と課題に関する調査	厚生労働省
・衛生研究所の建物等に関する調査	北海道立衛生研究所
・感染症データ分析ツールに関するアンケート	相模原市衛生研究所
・人材育成強化等の実施状況調査について	福岡県保健環境研究所
・危機整備状況等に関するアンケート調査	金沢市環境衛生試験所
・衛生研究所の乾式スクラバー維持管理状況調査について	静岡県環境衛生科学研究所
・年報発行に関するアンケート調査について	横浜市衛生研究所
・BSL3実験室に関するアンケートについて	福井県衛生環境研究センター
・地方衛生研究所におけるノロウイルス検査に関するアンケート調査	山口県環境保健センター

・地方感染症情報センターに関するアンケート調査について	さいたま市健康科学研究センター
・地方衛生研究所における病原体検査体制に関するアンケート調査	地方衛生研究所全国協議会精度管理部
・新型コロナウイルス感染症の初期症例の検査対応に関する調査	愛知県立衛生環境研究所
・地方衛生研究所と保健所の役割機能の整理及び感染症健康危機対応の強化に向けた研究	東京都健康安全研究センター
・AFPの病原体検査に関するアンケート	愛媛県立衛生環境研究所

2. 細菌部

1 試験検査の概況

令和4年度試験検査実施状況を表1に示した。

(1) 感染症発生動向調査事業

ア 細菌の分離同定検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により三類感染症として届出のあった患者の接触者検査、届出者の病原体を保有していないことの確認検査や保健所等から送付された菌株及び三類感染症以外の感染症について試験検査を実施した。また、令和4年4月27日付け事務連絡「欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について（協力依頼）」に基づき、検査体制を整えた。

- ・腸管出血性大腸菌（EHEC）検査は便495検体、ふきとり10検体、食品9検体の計514検体について実施した。病原体を保有していないことの確認検査の検出数を含め、69検体について検出した。検出した血清型は、O157：34株、O18：11株、O26：8株、O103：4株、O55：2株、O91：2株、O8：1株、O145：1株、O血清型不明：6株であった。
- ・チフス菌検査は便8検体について検査を実施したが、菌は検出されなかった。
- ・感染性胃腸炎検査として、8事例便68検体について検査を実施した。各事例は食中毒の可能性も配慮し、病原性大腸菌、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、ウェルシュ菌、セレウス菌、カンピロバクター属菌、ビブリオ類縁菌、エルシニア菌、エロモナス属菌、プレジオモナス属菌について検索を試みたが細菌検査では起因菌を特定することができなかった。
- ・小児急性肝炎検査は、便4検体について病原性大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌について検査を実施したが、菌は検出されなかった。
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症について収集した51菌株を用い、カルバペネマーゼ遺伝子等の試験検査を実施した。その結果、カルバペネマーゼ遺伝子IMP-1が1株、NDM-5が1株検出された。
- ・バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症は10菌株収集し、全ての菌株からvanB遺伝子が検出された。
- ・腸管出血性大腸菌O18acの志賀毒素遺伝子（stx2e）の損傷確認検査（全ゲノム解析による毒素遺伝子の配列解析）5菌株、侵襲性肺炎球菌1菌株の血清型別検査、レプトスピラ症8検体、ライム病ボレリア1検体、ブルセラ症1検体、野兔病2検体の臨床検体についての遺伝子検査・血清抗体価検査を国立感染症研究所に依頼した。

イ 感染症発生動向調査事業に基づく菌株送付

- ・発生届のあった3類感染症であるチフス菌1株及び腸管出血性大腸菌の菌株82株について、性状確認後、感染症発生動向調査事業に基づき国立感染症研究所へ送付した。腸管出血性大腸菌O抗原血清型の内訳はO157：38株、O26：9株、O103：6株、O115：2株、O145：2株、O121：1株、O128：1株、O136：1株、O55：1株、O91：1株、O血清型不明：20株であった。

ウ 細菌の分子疫学解析検査

感染症の集団発生時や広域事例探知の目的として、感染経路の特定・感染源解明のために分子疫学解析検査を行った。類似パターンを示した事例については、その情報を依頼保健所及び主管課へ提供した。

- ・結核菌 91 株について VNTR 法による分子疫学解析を実施した。得られた結果はデータベースに加え過去事例との類似性を確認した。
- ・チフス菌 4 株、バンコマイシン耐性腸球菌 10 株について PFGE 法による分子疫学解析を実施した。
- ・腸管出血性大腸菌 O157 の 19 株について MLVA 法による分子疫学解析を行った。また、腸管出血性大腸菌 O18ac の 7 株については PFGE 法を行った。

エ 細菌感染症検査に係る外部精度管理

次の外部精度管理に参加し、結果はすべて良好であった。

- ・令和 4 年度 厚生労働省 外部精度管理事業
三類感染症検査に係る「コレラ菌」の同定 3 菌株
- ・令和 4 年度 厚生労働科学研究 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
「食品由来感染症の病原体の解析方法及び共有化システムの構築のための研究」
腸管出血性大腸菌 O157:3 菌株、O26:1 菌株、O111:1 菌株
(PFGE 法、MLVA 法実施)
- ・厚生労働科学研究 (食品の安全確保推進研究事業)
「食中毒調査の迅速化・高度化及び広域食中毒発生時の早期探知等資する研究」
腸管出血性大腸菌 O157 4 菌株 (MLVA 法)
- ・令和 4 年度 厚生労働科学研究
「国内のサーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究」
分担研究「抗酸菌型別分析における制度保証」
結核菌 DNA 5 検体 (VNTR 法)

(2) 食品衛生関連事業

ア 食中毒検査

食中毒事例(疑い含む)が 39 事例発生し、原因物質究明のための細菌検査を行った。

搬入された便 130 検体、ふきとり 99 検体、食品 32 検体、菌株 2 検体、寄生虫体 7 検体、吐物 1 検体の計 271 検体について主に食中毒細菌 11 項目の検査を行い、その中の食品 1 検体については一般細菌数を追加で実施した。また、寄生虫体 7 検体について顕微鏡観察及び遺伝子検査を行った。

その結果、カンピロバクター属菌 17 株 (*Campylobacter jejuni*)、サルモネラ属菌 1 株 (*Sal.Schwarzengrund*)、黄色ブドウ球菌 12 株、セレウス菌 4 株を検出し、アニサキス 7 検体 (*Anisakis simplex sensu stricto*:6 検体、*Anisakis pegreffii*:1 検体)を同定した。

イ 食品衛生法に基づく収去食品検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき実施した。保健所の監視指導に伴い搬入さ

れた収去食品等の試験検査を行った。

(ア) 食肉の試験検査

汚染された食肉及びその加工品等による食中毒を防止するため食肉 51 検体について、カンピロバクター属菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌（O26、O103、O111、O121、O145、O157）及び腸内細菌科菌群等の試験検査を行った。その結果、カンピロバクター属菌が 11 株、サルモネラ属菌が 10 株検出された。

(イ) 輸入食品の試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため輸入食品 111 検体（食肉製品 20 検体、清涼飲料水 13 検体、冷凍食品 64 検体、容器包装詰加圧加熱殺菌食品 6 検体、微生物学的成分規格の定めがない食品 8 検体）について、一般細菌数、E.coli、大腸菌群、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、クロストリジウム属菌数、緑膿菌、腸球菌、恒温試験、細菌試験、大腸菌群数のうち、それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を行った。その結果、大腸菌群 2 検体が陽性、一般細菌数において 3 検体が基準値を超えていた。

(ウ) 夏期一斉取締りに伴う収去食品検査

夏期に多発する食中毒等の食品による事故の防止を図るため、収去食品 38 検体(弁当及びそうざい 38 検体)について、一般細菌数、大腸菌、黄色ブドウ球菌の試験検査を実施した。その結果は、全て適合であった。

(エ) 年末一斉取締りに伴う収去食品検査

食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が発生する冬期における食中毒の発生防止を図るため、収去食品 43 検体（弁当及びそうざい 30 検体、洋生菓子 13 検体）について、一般細菌数、大腸菌、大腸菌群、黄色ブドウ球菌のうち、それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を実施した。その結果、洋生菓子の腸内細菌科菌群において 2 検体陽性となった。

(オ) 認定小規模食鳥処理場衛生状況調査

認定小規模食鳥処理場の衛生状況を把握するため、県内のべ 19 施設において採取した拭き取り等 133 検体についてサルモネラ属菌、カンピロバクター属菌の定性試験を行った。その結果、カンピロバクター属菌が 29 検体、サルモネラ属菌が 8 検体検出された。

(カ) 食品衛生外部精度管理調査

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所の 2022 年度食品衛生外部精度管理調査に参加し E.coli 検査、一般細菌数測定検査、腸内細菌科菌群、黄色ブドウ球菌検査、サルモネラ属菌検査、大腸菌群検査を実施した。その結果は、すべて良好であった。

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、農産物漬物の試験検査及び県内産ヒラメの寄生虫（クドア）汚染状況調査が中止となった。

(3) 水道水質調査事業

病原性微生物等実態調査実施要領に基づき、原虫（クリプトスポリジウム・ジアル

ジア)等の存在状況の実態を把握するため、汚染のおそれのレベルが高い(レベル3あるいはレベル4)県内2市町村の5浄水場について原水及び浄水の検査を行った。その結果、クリプトスポリジウム、ジアルジア、大腸菌、嫌気性芽胞菌は不検出であった。詳細については、表2のとおりである。

(4) 環境衛生に係る試験検査

レジオネラ症の患者発生時において入浴施設の関連が疑われる場合に、当該施設の浴槽水等のレジオネラ属菌の試験検査を行った。また、令和5年2月27日付け厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課事務連絡「旅館業における入浴施設のレジオネラの防止対策及びコンプライアンスの遵守の周知徹底について」を受けて、県内旅館業の入浴施設を対象とした浴槽水のレジオネラ属菌検査を実施した。

17施設の浴槽水等41検体、ふきとり27検体の試験検査を行い、冷却遠心法にて濃縮し酸処理後培養した結果、2検体からレジオネラ属菌が分離された。

(5) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

医療機器の品質を確保するため、シリンジ1検体について無菌検査を行い陰性であった。

表1 令和4年度 試験検査実施状況

項目	検体数	検出病原体等 ()は検出数
腸管出血性大腸菌	514	O157(34) O18(11) O26(8) O103(4) O55(2) O91(2) O8(1) O145(1) OUT(6)
チフス菌	8	
感染性胃腸炎 (11項目)	68	黄色ブドウ球菌(1) ウェルシュ菌(1)
小児急性肝炎 (4項目)	4	
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	51	IMP-1(1) NDM-5(1)
バンコマイシン耐性腸球菌	10	VanB(10)
感染症 発生動向調査	腸管出血性大腸菌(菌株確認検査)	82 O157(38) O26(9) O103(6) O115(2) O145(2) O121(1) O128(1) O136(1) O55(1) O91(1) OUT(20)
	チフス菌(菌株確認検査)	1 ファージ型 UVS4
事業関連	腸管出血性大腸菌 O18ac の志賀毒素 遺伝子 (stx2e) の損傷確認検査	5
	侵襲性肺炎球菌	1 血清型 Typ24B(1)
	レプトスピラ症	8
	ライム病	1
	ブルセラ症	1
野兔病	2	

分子疫学解析 検査	結核菌 (VNTR)	91	
	チフス菌 (PFGE)	4	
	腸管出血性大腸菌 (MLVA,PFGE)	26	
	バンコマイシン耐性腸球菌 (PFGE)	10	
食品衛生事業 関連	食中毒 (疑い含む) 検査	271	カンピロバクター属菌(17) サルモネラ属菌(1) 黄色ブドウ球菌(12) セレウス菌(4) <i>Anisakis simplex sensu stricto</i> (6) <i>Anisakis pegreffii</i> (1)
	夏期一斉取締りに伴う収去検査	38	
	年末一斉取締りに伴う収去検査	43	大腸菌群(2)
	食肉の試験検査	51	カンピロバクター属菌(11) サルモネラ属菌(10)
	輸入食品の試験検査	111	大腸菌群(2) 一般細菌数(3)
	認定小規模食鳥処理場衛生状況調査	133	カンピロバクター属菌(29) サルモネラ属菌(8)
	食品衛生外部精度管理調査	6	
	水道水質調査 (原水・浄水)	10	
	環境衛生関連 (浴槽水等)	68	レジオネラ属菌(2)
	医療機器一斉監視指導に係る試験検査	1	
合計	1,610		

表 2 病原性微生物等実態調査一覧

検査項目	件 数		計
	水道原水	浄水	
気温	5	5	10
水温	5	5	10
大腸菌	5	5	10
嫌気性芽胞菌	5	5	10
クリプトスポリジウム	5	5	10
ジアルジア	5	5	10
合 計	30	30	60
調査地点	西金浄水場	大子町	
	頃藤浄水場	大子町	
	芦野倉浄水場	大子町	

上岡浄水場	大子町
江戸崎浄水場	稲敷市

2 調査研究

(1) 茨城県における結核菌分子疫学解析に関する研究

平成 29 年度より県内全ての分離結核菌株収集をめざし、収集した結核菌に対して 24 領域の VNTR 法による解析を実施している。本年度は 91 菌株について解析を実施した。データベースは平成 23 年以降搬入された菌株を用いて実施し、本年度末までに 61 のクラスターを形成している。

平成 30 年度から次世代シーケンサー(NGS)を用いた全ゲノム解析を実施し、VNTR 法より精度の高い遺伝子解析を行うこととした。

今年度も引き続き、VNTR 法による分子疫学解析の結果をデータベースに加え情報量の充実化に努めた。また、収集した菌株中、集団感染事例を中心に NGS 解析を行った。その成果の一部は、結核予防技術者地区別講習会や地方衛生研究所全国協議会等で発表した。

(2) 茨城県における薬剤耐性菌の分子疫学解析に関する研究

県内のカルバペネム耐性菌の実態を詳細に把握する目的で、届出対象にならないカルバペネム耐性腸内細菌目細菌 (CRE) 菌株を協力医療機関から収集しカルバペネマーゼ遺伝子検査等を実施している。

今年度は協力医療機関から 61 菌株を収集し検査を実施したが、カルバペネマーゼ遺伝子は検出されなかった。

この研究は、令和元年度から令和 3 年度の 3 年間で予定していたが、カルバペネム耐性菌の実態把握の重要性が高いため、令和 4 年度からさらに研究期間を 5 年延長した。全ゲノム解析やプラスミド解析も実施し詳細な実態調査をしていく計画である。

3. ウイルス部

1 試験検査の概況

(1) 感染症発生動向調査事業等

令和4年度感染症発生動向調査事業に係る検査件数を表1に示した。

ア インフルエンザ

病原体定点医療機関から提出のあった59検体, 集団発生50検体の合計109検体について遺伝子検査及び分離培養・同定検査を実施した。その結果, AH1pdm09 5件, AH3 92件, B (ビクトリア系統) 1件が検出された。

イ 感染性胃腸炎

病原体定点医療機関から提出のあった4検体及び、下痢症ウイルスによる集団感染等が疑われた事例延べ472検体、合計476検体について、下痢症ウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス186件 (GI 2件、GII 184件)、サポウイルス70件、Aロタウイルス1件、アデノウイルス8件が検出された。

ウ ジカ熱・チクングニア熱・デング熱

デング熱、ジカ熱、チクングニア熱疑い2名の検査を実施したところ、原因ウイルスは検出されなかった。

エ つつが虫病・日本紅斑熱

つつが虫病疑い12名の遺伝子検査を行ったところ、*Orientia tsutsugamushi* Kuroki型4件、Kawasaki型1件が検出された。日本紅斑熱疑い6名について*Rickettsia japonica* 2件が検出された。

オ 麻しん・風しん

麻しん及び風しん疑い患者6名の遺伝子検査を行ったところ、原因ウイルスは検出されなかった。

カ 急性脳炎

急性脳炎・脳症 (疑い例を含む) の患者54名の血清、髄液、咽頭ぬぐい液、糞便等を用いて遺伝子検査を実施した。その結果、サイトメガロウイルス1件、ヒトヘルペスウイルス6型15件、7型4件、コクサッキーウイルスA4型2件、A6型3件、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 6件、ライノウイルス2件、麻疹ウイルスA型 (ワクチン株) 1件、ヒトボカウイルス2件、ヒトパレコウイルス1件、RSウイルス1件、エンテロウイルス属 (型別不能) 1件、アデノウイルス2型1件、アデノウイルス41型2件、アデノウイルス (型別不能) 3件、EBウイルス2件、ヒトパラインフルエンザウイルス1件が検出された。

キ E型肝炎・A型肝炎

E型肝炎患者13名、A型肝炎患者3名の遺伝子検査を行ったところ、E型肝炎ウイルスは7件、A型肝炎ウイルスは1件検出された。

ク 無菌性髄膜炎・手足口病・突発性発疹・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱・流行性角結膜炎・RSウイルス感染症

無菌性髄膜炎39名、手足口病3名、突発性発疹4名、ヘルパンギーナ2名、咽頭結膜熱2名、流行性角結膜炎5名、RSウイルス感染症23名の検体について遺伝子検査、分離培

養・同定検査を実施した。その結果、無菌性髄膜炎からEBウイルス2件、水痘・帯状疱疹ウイルス2件、単純ヘルペスウイルス2型1件、ヒトヘルペスウイルス6型3件、RSウイルス1件、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）1件、アデノウイルス（型別不能）1件、コクサッキーウイルス（A6型）1件が検出された。手足口病では、コクサッキーウイルスA6型3件が検出された。突発性発疹ではヒトヘルペスウイルス6型が4件検出された。咽頭結膜熱ではアデノウイルス3型が1件検出された。流行性角結膜炎ではアデノウイルス37型が3件、64型が1件検出された。RSウイルス感染症では、RSウイルス20件が検出された。

ケ 呼吸器感染症

新型コロナウイルス感染疑い患者 1,585 名の遺伝子検査を実施した結果、新型コロナウイルスが 1,585 件検出された。

呼吸器感染症が疑われる集団発生事例の施設26検体の検体の提出があり、原因追究に貢献した（表2）。

表1 令和4年度 衛生研究所のウイルス検出状況

1 感染症発生動向調査事業に基づくもの

	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	病原体検出件数		
				遺伝子 検査	分離 培養	
感染症の類型	E 型肝炎	13	—	7		
	A 型肝炎	3	—	7		
	重症熱性血小板 減少症候群 (SFTS)	3	—	0		
	ジカ熱・チクン グニア熱・デン グ熱	2	—	0		
	つつが虫病	12	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Kuroki 型 <i>Orientia tsutsugamushi</i> Kawasaki 型	4 1		
	日本紅斑熱	6	<i>Rickettsia japonica</i>	2		
	エムボックス	3	サル痘ウイルス	1		
	5 類感染症 (全数届出疾患)	急性脳炎・脳症	54	サイトメガロウイルス	1	
				ヒトヘルペスウイルス 6 型	15	
				ヒトヘルペスウイルス 7 型	4	
コクサッキーウイルス A4 型				2		
コクサッキーウイルス A6 型				3		
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)				6		
ライノウイルス				2		
麻疹ウイルス A 型 (ワクチン株)				1		
ヒトボカウイルス	2					
ヒトパレコウイルス	1					
RS ウイルス	1					

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	病原体検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
			エンテロウイルス属(型別不能)	1	
			アデノウイルス 2 型	1	
			アデノウイルス 41 型	2	
			アデノウイルス(型別不能)	3	
			EB ウイルス	2	
			ヒトパラインフルエンザウイルス	1	
	風しん (疑いを含む)	1	—	0	
	麻疹 (疑いを含む)	5	—	0	
	急性弛緩性麻痺	1	—	0	
新型インフルエンザ等感染症 (全数届出疾患)	COVID-19 (疑いを含む)	1585	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	1,585	486
5 類感染症 (定点把握疾患)	RS ウイルス感 染症	23	RS ウイルス	20	20
	感染性胃腸炎	4	ノロウイルス GII	1	
	手足口病	3	コクサッキーウイルス A6 型	3	
	突発性発しん	4	ヒトヘルペスウイルス 6 型	4	
	無菌性髄膜炎	39	EB ウイルス	2	
			水痘・帯状疱疹ウイルス	2	
			単純ヘルペスウイルス 2 型	1	
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	3	
			RS ウイルス	1	
			新型コロナウイルス(SARS-CoV-2))	1	
			アデノウイルス (型別不能)	1	
			コクサッキーウイルス A6 型	1	
	ヘルパンギーナ	2	コクサッキーウイルス A6 型	2	
	咽頭結膜熱	2	アデノウイルス 3 型	1	
	流行性角結膜炎	5	アデノウイルス 37 型	3	
			アデノウイルス 64 型	1	
	インフルエンザ	59	インフルエンザ AH3	56	7
			インフルエンザ B(ビクトリア系統)	1	
その他	その他 (呼吸器感染症 等)	29	RS ウイルス	1	1
	インフルエンザ	12	ライノウイルス	1	
			エンテロウイルス属(型別不能)	1	
			インフルエンザ AH3	6	

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	病原体検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
	小児の原因不明 の急性肝炎	3	アデノウイルス2型+アデノウイルス (型別不能)+ヒトヘルペスウイルス6 型+ヒトヘルペスウイルス7型 EBウイルス+ヒトヘルペスウイルス 7型 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	1 1 1	
集団感染事例	感染性胃腸炎	472	ノロウイルス GII ノロウイルス GI サポウイルス A群ロタウイルス アデノウイルス(型別不能) アデノウイルス41型	183 2 70 1 1 7	
	呼吸器感染症	26	RSウイルス ライノウイルス	13 6	13 6
	インフルエンザ	50	インフルエンザ AH3 インフルエンザ AH1pdm09	36 5	
合 計 (人)		2,406		2,091	

表2 令和4年度 呼吸器感染症集団発生事例病原体検出状況

検体採取日	保健所名	施設種類	検出病原体名
10月 4日	土浦	グリーンヒル千代田	RSウイルス

(2) 食品衛生対策に関する試験検査

ア 有症者及び従業員等の検査

食中毒(疑い例、有症苦情等を含む)事例153検体について、下痢症ウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス57件(GI 2件、GII 55件)が検出された。

イ 食品検査・ふき取り検査

食中毒の原因食品として疑われた食品19検体及びふき取り7検体について、ノロウイルスの遺伝子検査を実施したところ、ふき取り1検体からノロウイルスGIIが検出された。

ウ 二枚貝のノロウイルス検査

県内で水揚げされる二枚貝 27 個についてノロウイルスの検査を実施したところ、すべて陰性であった。

(3) 外部精度管理

厚生労働省が実施する感染症病原体外部精度管理事業に参加し、「新型コロナウイルスの次世代シーケンシング(NGS)による遺伝子の解読解析」、「インフルエンザウイルスの核酸検出検査」を実施したところ、結果は適合であった。

2 調査研究

(1) 感染症流行予測調査

ア 日本脳炎感染源調査

ブタが日本脳炎ウイルスの増幅動物になっていることから、ブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を測定することでその侵淫度を調査し、日本脳炎の流行を把握するために実施した。

令和4年7月から9月にかけて、(株)茨城県中央食肉公社に集荷された生後6カ月の県内産のブタから8回、1回あたり10頭を目安に採血した。採血した合計80検体について、血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制試験(HI)で抗体価を測定した。

結果は表2のとおりであった。同一農場の豚2頭でHI抗体価の上昇が認められ、2-ME感受性抗体は1頭が擬陽性、1頭が陽性となった。本調査結果から、県内には日本脳炎ウイルス陽性農場が一部存在していることがわかった。

表 2 令和4年度 と畜場搬入豚の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況

検体採取日	検査頭数	H I 抗体価							HI 抗体陽性 頭数	HI 抗体陽性 %	2ME 感受性※		養豚場所
		<10	10	20	40	80	160	320			≥640	検査数	
7月12日	10								0	0			小美玉市
7月25日	10								0	0			茨城町
8月1日	10								0	0			茨城町
8月16日	10								0	0			鉾田市
8月29日	10								0	0			小美玉市
9月5日	10								0	0			茨城町・小美玉市
9月12日	10								0	0			鉾田市
9月26日	10	8			1			1	2	20	2	1	茨城町
計	80	78			1			1	2	2.5	2	1	50

※ 2-ME 感受性抗体は、HI 抗体価 1 : 40 以上であった検体について検査した。

2-ME 処理を行った血清の HI 抗体価が未処理の血清 (対照) と比較して、8 倍 (3 管) 以上低かった場合を陽性 (+)、4 倍 (2 管) 低かった場合を偽陽性 (±)、不変または 2 倍 (1 管) 低かった場合を陰性 (-) と判定した。

なお、対照の HI 抗体価は 1 : 40 で、2-ME 処理を行った血清が 1 : 10 未満であった場合は陽性と判定した。

イ インフルエンザ感受性調査

ヒトの免疫状況を把握し、次シーズンの流行予測に役立てるために、インフルエンザウイルスに対する血清中の抗体を測定した。

令和4年7月から10月に各年齢群ごとに採血した198名の血清について、赤血球凝集抑制試験（HI法）を実施した。

使用したHA抗原は、次の4種である。

- ・ A/ビクトリア/1/2020 (H1N1)
- ・ A/ダーウィン/9/2021 (H3N2)
- ・ B/プーケット/3073/2013 (山形系統)
- ・ B/オーストラリア/1359417/2021 (ビクトリア系統)

各抗原に対する各年齢区分の抗体保有者数等の結果を表5に示した。なお、感染防御の目安とされるHI抗体価1:40以上を抗体保有者として、抗体保有率を算出した。

表4 年齢区分別インフルエンザ抗体保有状況

年齢区分 (歳)	人数 (人)	A/ビクトリア /1/2020 (H1N1)		A/ダーウィン /9/2021 (H3N2)		B/プーケット /3073/2013 (山形系統)		B/オーストラリア /1359417/2021 (ビクトリア系統)	
		抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)	抗体保 有人数 (人)	抗体 保有率 (%)
0-4	28	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5-9	14	4	28.6	3	21.4	2	14.3	0	0.0
10-14	14	5	35.7	2	14.3	2	14.3	0	0.0
15-19	12	3	25.0	2	16.7	2	16.7	0	0.0
20-29	30	16	53.3	3	10.0	14	46.7	0	0.0
30-39	44	24	54.5	14	31.8	27	61.4	2	4.5
40-49	23	2	8.7	4	17.4	5	21.7	0	0.0
50-59	21	3	14.3	6	28.6	5	23.8	3	14.3
60-	12	1	8.3	1	8.3	2	16.7	1	8.3
合計 (全体の 抗体保有 率)	198	58	29.3	35	17.7	59	29.8	6	3.0

ウ 麻しん風しん感受性調査

今後の流行を予測することを目的として、麻しんウイルス及び風しんウイルスに対するヒト血清中の抗体保有状況及び麻しん及び風しんワクチン接種効果を調査した。

令和4年7月から10月にかけて各年齢群に採取された血清198検体について、「EIA「生研」(デンカ)を用い麻しんEIA抗体価を測定し、赤血球凝集抑制試験(HI法)で風しん抗体価を測定した。

麻しんEIA抗体価の結果を表5に、風しんHI抗体価の結果を表6に示した。

表5 年齢区分別麻しんEIA抗体保有状況

年齢区分 (歳)	PA抗体価(人)											総計 (人)
	<1:16	1:16	1:32	1:64	1:128	1:256	1:512	1:1024	1:2048	1:4096	≥1:8192	
0-1	7		1	1		1	1		1			12
2-3					3	5	4	2				14
4-9	1	2	1		1	3	3	3	2			16
10-14		1		2		3	5	3				14
15-19				2	3	2	2	3				12
20-24		1	1	3	3	6	1	1				16
25-29			1		7	3	2	1				14
30-39			3	2	12	7	9	3	3	3	2	44
40-49			1		2	5	5	4	4	1	1	23
50-59				1		4	7	2	3	4		21
60-				1	1	3	4	2			1	12
合計	8	4	8	12	32	42	43	24	13	8	4	198

表6 年齢区分別風しんHI抗体保有状況

年齢区分 (歳)	HI抗体価(人)									総計 (人)	
	<1:8	1:8	1:16	1:32	1:64	1:128	1:256	1:512	≥1:1024		
0-1	8				1	2	1				12
2-3		1	3	2	7	1					14
4-9	1	3	3	2	2	4	1				16
10-14			2	4	6	2					14
15-19			2	5	2	3					12
20-24	2		3	5	3	3					16
25-29			4	4	6						14
30-39	1		6	19	8	6	3	1			44
40-49	3		1	3	5	6	2	1	2		23
50-59	1		1	1	4	8	3	1	2		21
60-	2		1		1	5	1	2			12
合計	18	4	26	45	45	40	11	5	4		198

エ 新型コロナウイルス感受性調査

新型コロナウイルス（JPN/TY/WK-521 株）に対するヒト血清中の抗体保有状況を調査し、新型コロナウイルスワクチンの接種効果を調査することを目的として実施した。

令和4年7月から9月にかけて採取された血清100検体について、国立感染症研究所より分与された VeroE6/TMPRSS2 細胞、標準血清及び標準株を用いて中和抗体価を測定した。

各年齢群ごとの中和抗体価の結果を表7に示した。

表7 年齢群別新型コロナウイルス中和抗体保有状況

年齢区分 (歳)	中和抗体価(人)							総計 (人)
	<1:5	1:5	1:10	1:20	1:40	1:80	≥1:160	
0-4	14	1						15
5-9	7							7
10-14	4			2			2	8
15-19	1		1	2		1	3	8
20-24					1	2	1	4
25-29		2	2	2		3	1	10
30-34			2		5	4	4	15
35-39			1	1	1	3	4	10
40-44					1		3	4
45-49				2	1	1		4
50-54					1	3		4
55-59						1	3	4
60-					1	1	5	7
合計	26	3	6	9	11	19	26	100

4. 理化学部

1 食品試験検査の概況

令和4年度食品試験検査実施状況を表1に示した。

(1) 遺伝子組換え食品試験検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき、例年、大豆の遺伝子組換え体（ラウンドアップレディー大豆）の含有検査を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施されなかった。

(2) 県外産農産物残留農薬試験検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき、例年、県外産の農産物の残留農薬検査を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施されなかった。

(3) 輸入野菜残留農薬試験検査

令和4年度茨城県食品衛生監視指導計画及び令和4年度輸入野菜の試験検査実施要領に沿って、輸入野菜27検体（ピーマン（パプリカ含む）、タケノコ各5検体、ブロッコリー、かぼちゃ、ニンジン各3検体、オクラ、カリフラワー各2検体、さといも、未成熟インゲン、トマト、ダイコン各1検体）について農薬97～201項目の検査を実施した。結果は以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

・パプリカ1検体からクレソキシムメチル、クロルフェナピル、トリフロキシストロビンが検出された。

【測定項目】

アザコナゾール、イソキサチオン、イマザリル、ウニコナゾールP、エチオン、クレソキシムメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンビンホス、シアナジン、ピリメタニル、フェントエート、プロシミドン、ホスチアゼート、マラチオン等

(4) 漬物の添加物試験検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき、例年、漬物について食品添加物（ソルビン酸）の検査を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施されなかった。

(5) 輸入食品試験検査

令和4年度茨城県食品衛生監視指導計画及び令和4年度輸入食品の試験検査実施要領に沿って、輸入食品の試験を実施した。柑橘類の残留農薬検査については、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施されなかった。

ア) 菓子類の食品添加物

輸入食品（菓子類）18検体について、TBHQ（※）の検査を行った。結果は全て不検出であった。

※TBHQ：tert-ブチルヒドロキノン（指定外酸化防止剤）

イ) 乾燥果実・乾燥かんぴょう、煮豆・甘納豆、ワインの食品添加物

輸入食品36検体（乾燥果実・かんぴょう11検体、煮豆・甘納豆7検体、ワイン18検体）について残存する二酸化硫黄（亜硫酸塩：保存料、酸化防止剤）の検査を行った。結果は全て基準値以下であった。

ウ) 農産物漬物原材料（漬物含む。）の食品添加物

輸入農産物漬物原材料（漬物含む。）27検体についてソルビン酸の検査を行った。結果は全て使用基準以下であった。

エ) ソルビン酸の使用基準の定めのある食品

ソルビン酸の使用基準の定めがある食品18検体（ワイン15検体、ジャム1検体、ニョッキ1検体、漬物1検体）について検査を行った。結果は全て使用基準以下であった。

(6) 加工食品の放射性物質試験検査

令和4年度茨城県食品衛生監視指導計画及び令和4年度加工食品の放射性物質試験検査実施要領に沿って、県内事業者が製造した加工食品38検体（牛乳3検体、一般食品35検体）について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した。結果は全て不検出（検出限界以下）であった。

(7) イノシシ肉の放射性物質試験検査

イノシシ肉の放射性物質検査実施要領に沿って、県の「出荷・検査方針」に基づき捕獲・処理されたイノシシの肉について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の確定検査を実施する。令和4年度は豚熱の影響で検査依頼がなかった。

(8) 食中毒・苦情・違反食品等の行政検査

保健所等に有症苦情や苦情の届け出のあった食品15検体について、以下のとおり原因究明のための検査を実施した。

- ・魚加工品1検体についてヒスタミンの検査を実施した。
- ・ミックスマッツ1検体について酸化・過酸化物質の検査を実施した。
- ・魚介冷凍品9検体についてヒスタミンの検査を実施した。
- ・スイセンの球根、カレー各1検体についてリコリンの検査を実施した。
- ・セリ、セリの天ぷら各1検体について毒劇物5項目（ヒ素、シアン化物イオン、農薬（コリンエステラーゼ阻害剤）、硝酸イオン、亜硝酸イオン）の検査を行った。

表1 令和4年度食品検査項目及び件数

項目	検体数	項目数	件数
(1) 遺伝子組換え食品試験検査	-	-	-
(2) 県外産農産物残留農薬試験検査	-	-	-
(3) 輸入野菜残留農薬試験検査	27	97~201	4,459
(4) 漬物の添加物試験検査	-	-	-
(5) 輸入食品試験検査			
ア) 菓子類の食品添加物	18	1	18
イ) 乾燥果実・煮豆、ワイン等の食品添加物	36	1	36
ウ) 農産物漬物原材料(漬物含む)の食品添加物	27	1	27
エ) ソルビン酸の使用基準の定めのある食品 (ワイン・農産物漬物・あん類等)	18	1	18
(6) 加工食品の放射性物質試験検査	38	2	76
(7) イノシシ肉の放射性物質試験検査	-	-	-
(8) 食中毒・苦情食品・違反食品等の行政検査	15	1~5	24
合計	179		4,658

(9) 外部精度管理

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が実施する令和4年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物検査(果実ペースト中のソルビン酸の定量)を実施した。結果は、概ね良好であった。

令和4年度地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック精度管理事業(模擬訓練)に参加し、事務局から配布された模擬資料(植物片)に含まれる植物性自然毒の植物名、有毒成分名について植物の外見や患者の症状、機器分析により推定し報告した(クワズイモ属、シュウ酸カルシウム)。結果は適合であった。

2 医薬品等試験検査の概況

医薬品公的認定試験検査機関として、医薬品等の試験検査を行っている。

令和4年度医薬品等試験検査実施状況を表2に示した。

(1) 県内流通医薬品等試験検査

令和4年度県内流通医薬品試験検査実施要領に沿って、以下の医薬品等40検体及び水戸市から委託を受けた医薬品等1検体の溶出試験、定量試験を実施した。結果は、すべて適合であった。

日本薬局方医薬品

エナラプリルマレイン酸塩錠	15検体(溶出試験)
プラバスタチンナトリウム錠	13検体(溶出試験)
ロキソプロフェンナトリウム錠	8検体(定量試験)

薬局製剤

アセトアミノフェン含有製剤 5検体（定量試験）

(2) 医薬品・医療機器等一斉監視指導に係る試験検査

令和4年度茨城県医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領に沿って、後発医薬品及び医療機器の検査を実施した。

ア 後発医薬品

後発医薬品10検体（プレガバリンOD錠）について定量試験を実施した。結果は全て適合だった。

イ 医療機器

汎用針付注射筒 1 検体について外観試験を実施した。結果は適合であった。

(3) 家庭用品試買試験検査

令和4年度家庭用品試買試験検査実施要領に沿って、以下の家庭用品150検体について検査を実施した。

- ・ 家庭用エアゾル製品9検体について、メタノール、テトラクロロエチレン及びトリクロロエチレンの試験を実施した結果、全て基準値以下だった。
- ・ 繊維製品、つけまつげ用接着剤等141検体について、ホルムアルデヒドの試験を実施した結果、全て基準値以下であった。

(4) 無承認無許可医薬品試験検査

令和4年度無承認無許可医薬品対策事業実施要領に沿って、ダイエットを目的とする製品 21 検体及び強壮作用を目的とする製品 23 検体について、以下の成分の試験を実施した。結果は全て不検出であった。

〈ダイエット成分〉

エフェドリン、ノルエフェドリン、シブトラミン、脱 N-ジメチルシブトラミン、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、センノシド、オリスタット

〈強壮成分〉

シルデナフィル、バルデナフィル、タダラフィル、ヒドロキシホモシルデナフィル、アミノタダラフィル、クロロプレタダラフィル、ノルカルボデナフィル

(5) 危険ドラッグ買上検査

危険ドラッグ買上検査事業実施要領に沿って、指定薬物の含有が疑われる商品の検査を行う予定であったが、検体の搬入がなかった。指定薬物リストの更新及び分析機器への登録を行った。

表 2 令和4年度医薬品等試験検査実施結果

項目	検体数	項目数	件数
(1) 県内流通医薬品等試験検査	41	1	41
(2) 医薬品・医療機器等一斉監視指導に係る試験検査			

ア 後発医薬品	10	1	10
イ 医療機器	1	1	1
(3) 家庭用品試買試験検査			
メタノール、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン	9	3	27
ホルムアルデヒド	141	1	141
(4) 無承認無許可医薬品試験検査			
ダイエット系	21	8	168
強壮系	23	7	161
(5) 危険ドラッグ買上検査	—	—	—
合 計	246		549

(6) 外部精度管理

厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課が実施する都道府県衛生検査所等における外部精度管理事業に参加し、カルベジロール錠の定量試験及び純度試験を実施した。

3 飲用水水質検査の概況

(1) 水道水中の放射性物質モニタリング

令和4年3月30日付け茨城県県民生活環境部水政課長通知「令和4年度水道水放射性物質モニタリングの実施について」に基づき、水道水(原水含む)57検体の放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した。結果は、全て不検出であった。

実施状況は、表3のとおりである。

表3 令和4年度水道水放射性物質モニタリング（R4.4～R5.3）実施結果

採水地点	水 源	検体数	項目数	件 数
日立市 森山浄水場（水道水・原水）	久慈川	8	2	16
日立市 十王浄水場（水道水・原水）	十王川	8	2	16
北茨城市 中郷浄水場（水道水・原水）	大北川	8	2	16
水戸市 楮川浄水場（水道水）	那珂川	12	2	24
常陸太田市 瑞竜浄水場（水道水）	地下水	4	2	8
常陸太田市 水府北部浄水場（水道水）	山田川	4	2	8
鹿嶋市 鹿嶋市役所（水道水）	北浦	4	2	8
桜川市 岩瀬庁舎（水道水）	西浦	4	2	8
神栖市 土合緑地（水道水）	鱒川	1	2	2
東海村 外宿浄水場（水道水）	久慈川	4	2	8
合 計		57		114

4 調査研究

(1) 凍結粉碎法を用いた食品中の残留農薬分析における前処理法の検討

令和 3 年度より残留農薬試験の前処理における凍結粉碎法の有用性について検討を行っている。